

## 令和5年度版「赤穂の環境」（速報）の概要について

## 1. 大気環境

- (1) 硫黄酸化物（二酸化硫黄）
  - ・一般環境大気監視局（8局）において環境基準に適合していた。
  - ・年間平均値（8局平均）は0.003 ppm であり、低濃度で推移している。
- (2) 浮遊粒子状物質
  - ・一般大気監視局（8局）において1時間値・日平均値ともに環境基準に適合していた。
  - ・年間平均値（8局平均）は0.012 mg/m<sup>3</sup> であり、近年同程度の値で推移している。
- (3) 窒素酸化物（二酸化窒素）
  - ・一般環境大気監視局（8局）において環境基準に適合していた。
  - ・年間平均値（8局平均）は0.006 ppm であり、近年同程度の値で推移している。
- (4) 光化学オキシダント
  - ・市役所局及び有年監視局において測定。
  - ・環境基準適合率は91.9～94.7%であった。
  - ・年間平均値（2局平均）は0.033 ppm であった。
  - ・光化学スモッグ広報等は、市役所局のデータに基づき兵庫県より発令されることとなっているが、令和4年度、光化学スモッグ予報及び注意報の発令はなかった。
- (5) 降下ばいじん
  - ・市内10地点において測定。
  - ・年間平均値は1.98 t/km<sup>2</sup>/月であり、本市の環境目標値に適合しており、また、近年同程度の値で推移している。
- (6) 微小粒子状物質（PM2.5）
  - ・平成25年11月から市役所において測定開始。
  - ・1時間値の年間平均値は6.9 µg/m<sup>3</sup> であり、環境基準に適合していた。
  - ・赤穂市を含む播磨西部地域において注意喚起情報の発信はなかった。

## 2. 水質環境

- (1) 河川
  - 千種川、長谷川、加里屋川、新川、大津川、塩屋川、矢野川の7河川、15地点において水質調査を実施。

・千種川の環境基準適合率

水素イオン濃度(pH)	生物化学的酸素要求量(BOD)	浮遊物質質量(SS)	溶存酸素量(DO)	大腸菌数*
100%	100%	100%	100%	100%

・その他の河川の環境目標値適合率の総合評価

水素イオン濃度(pH)	生物化学的酸素要求量(BOD)	浮遊物質質量(SS)	溶存酸素量(DO)
96%	93%	89%	93%

(2) 海域

地先海域の11地点において水質調査を実施。

・地先海域における環境基準適合率

水素イオン濃度(pH)	化学的酸素要求量(COD)	溶存酸素量(DO)	大腸菌数*
100%	23%	70%	100%

前年度よりCODの適合率は上がり、DOの適合率は下がっていた。

※令和4年4月1日より水質環境基準の改正が施行され、生活環境の保全に関する環境基準のうち、大腸菌群数が削除され、新たに大腸菌数が追加されたため、令和4年度より河川、海域の水質調査について、大腸菌数の測定を行っている。

3. 地球温暖化

(1) 赤穂市全体の温室効果ガス排出量

令和4年度の赤穂市全体の温室効果ガス排出量は、CO<sub>2</sub>換算で約312万t-CO<sub>2</sub>/年となった。

